

令和7年度 学校経営の重点等

1 学校経営の重点

校訓「自律・敬愛・創造」のもと、地域に生きる次代の担い手としての自覚と責任を持ち、自らが主体的に判断し現代社会を生き抜くことのできる「こころ豊かで自立した人づくり」に取り組むため、次の項目を重点目標に掲げる。これらを通して地域社会と連携協力しつつ、自らの夢の実現に向け、高い志や意欲を持ち、課題発見・解決能力を備えた人間として、自己の可能性を切り拓くことのできる自立した生徒を育成し、地域に愛される学校づくりを展開する。

(1) スクール・ミッション

「自律 敬愛 創造」の理念のもと、高い志や意欲をもち、課題発見・解決能力を備え、地域社会と連携協力しつつ、自己の可能性を切り拓き、自らの夢を実現できる人材を育成する。

(2) スクール・ポリシー

ア 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

- ① 地域住民や幼小中学校等と連携し、防災教育や交通安全教室等を通して地域の課題解決に取り組むことができる生徒を育成する。
- ② 社会の変化や問題に興味関心を持ち、生きる力を身につけ積極的に社会に参画できる生徒を育成する。
- ③ 恵まれた自然・人的環境など有効活用し、思いやりや寛容の心を備えた生徒を育成する。

イ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

- ① 基礎・基本の定着を図り、学習への意欲を高めるため、ICT機器の活用、習熟度別授業、ティーム・ティーチング、少人数授業等の充実を図る。
- ② 生徒の興味・関心、進路、能力や適性等に応じた多様な選択科目「海の生物」「海洋スポーツ」「航海・計器」等を設け、スキューバダイビング、小型船舶操縦士免許等の資格取得ができる教育課程を編成する。
- ③ 「総合的な探究の時間」等を活用して、地域の文化財等の教育資源を活用した探究活動を展開する。
- ④ 「西島デイキャンプ」「海洋スポーツ大会」等の体験的な行事を実施し、思いやりの心や自己有用感を育む学びを展開する。

ウ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

- ① 学習活動に意欲的に取り組み、部活動、生徒会活動等においても積極的な活動歴があり、入学後も積極的に活動する生徒を募集する。
- ② 一人一人の個性を尊重し、思いやりの心を持ち、互いに認めあうことのできる生徒を募集する。
- ③ 自らの夢の実現に向け、忍耐強く取り組む生徒を募集する。

(3) 重点を置く事項

ア 学習指導の徹底を図る

進学、就職それぞれの進路目標に応じた確かな学力を身につけさせるために、授業内容の見直しを行い、学習環境を整え、学習意欲の向上を目指す。個々の生徒の状況に応じた

きめ細かい指導を全教職員が心掛ける。

イ 進路指導の充実を図る

社会の変化に対応し、たくましく生きる力を身につけた人づくりに取り組む。生徒が主体的に自己理解を深めるための指導に努め、日々の生活の中で人間としての在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択し決定する能力を育てる。そして全教職員が個々の進路及び状況を的確に把握し、進路選択のミスマッチを防止する。

ウ 地域環境を教育活動に生かす

本校を取り巻く恵まれた自然・人的環境などを様々な教育活動に有効活用することにより、地域によって育てられる思いやりや寛容の心を備えた生きる力を育む。また、ふるさとを愛し、互いを思いやり、支え合いながら、命や人権を尊重する心の教育を推進し、将来的に地域を支える人物の輩出を目指す。

エ 広報活動を促進する

総務部を中心に、ホームページを核とした広報活動を展開する。ホームページを随時更新し、学校便り（家高だより）、学年だよりの定期的な配布等を通して、地域への情報発信を活発化させることで、教職員が本校の教育方針を再認識し、確かな目的意識を持って行動できる集団となるよう育成する。

オ 地域社会と積極的に交流する

近隣の幼・小・中学校との交流や地域行事に積極的に参加し、地域住民との参画・協働のもと、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。また、地域関係機関をはじめ、PTA、同窓会、学校評議員会、育成振興会、民生委員児童委員等との連携を強化し、地域の教育機関としての魅力ある学校づくりを推進し、地域に信頼される学校を目指す。

カ 教職員としての資質と実践的指導力の向上を図る

教職員相互が励まし合い、影響し合える豊かな人間関係づくりを進める。人間性・感性の涵養に努め、教職員としての使命感と高い倫理観をもち、専門性と実践的指導力の向上に努める。

キ 学校における働き方改革を推進する

教職員の業務の役割分担・適正化を目指し、業務改善プロジェクトチームを中心に業務改善を進める。また、行事検討委員会で学校行事の適正化・統廃合を検討するなどして教職員の負担削減を図る。教職員が自らの人生を豊かにするキャリアデザインを考え、教職員の間人性・創造性を高め、生徒への効果的な教育活動を目指す。

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む）の重点

(1) 教科指導

生徒の学習の達成状況を的確に把握し、個に応じた教育を実現し、学習指導要領に基づき、基礎・基本を確実に身につけさせる。さらに、自ら考え、学び、判断する力の習得及び感性の涵養を含めた学力の向上を図る。

ア 「海の学校」の特性を生かした類型に基づいて、生徒の能力や適性等に応じた多様な選択教科・科目を設けるとともに、生徒の興味・関心と進路に応じた教育課程を編成する。

イ 基礎・基本の定着を図り、学習への意欲を高め、一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を充実させるため、習熟度別学習やティーム・ティーチング、少人数授業を取り入れるなど指導方法の工夫・改善に努める。

ウ 「総合的な探究の時間」において、自ら問題を発見し解決する資質や能力を育て、現代

社会に生きる自己の姿を見つめ直し、生き方を新たに創造する力を育む。

エ 一級小型船舶操縦士免許、情報処理検定、英語検定、漢字検定、簿記検定等の資格取得を推進し、生徒一人ひとりの自己実現を保障する。

オ 「エンパワーメント」の授業を中心に、生徒の基礎学力定着を目指す。

カ 年2回の公開授業週間や定期的な研究授業・公開授業に加え、日常的に全教員が授業見学を行い、指導の統一を図るために校内研修を実施する。全教職員が各学級における問題点や情報を共有し、全教職員が授業改善、魅力あふれる分かりやすい授業の充実に努める。

(2) 生徒指導

ア 一人ひとりの生徒に対して多面的かつ共感的理解に基づいた生徒指導を行い、家庭や地域との連携を密にする中で、互いを尊重し思いやり、人間的ふれあいや心のきずなを大切にする姿勢を育む。

イ 時間厳守、挨拶の励行、端正な服装の着こなし等の基本的生活習慣の確立と社会規範を遵守する態度を育成し、社会の一員として生きていく上で基礎となる道徳心や判断力、主体性の涵養に努め、自律的思考を養う。

ウ 自己の在り方・生き方を考え、高い志を抱いて積極的に自己を生かそうとする態度や未来に向けて人生を切り拓く「生きる力」を培う。

エ 成人年齢引き下げに伴い、保護者問題及び個人契約等、生じる可能性のある事案について、保護者と連携を密にして対応する。

オ 高校生による交通事故が多発していることから、生徒自身が加害者や被害者とならないように、交通安全に関する講演等を実施する。交通事故の悲惨さを理解させ、学校として、率先して地域における交通事故防止に貢献する。

カ いじめのアンケートを年間11回実施し、アンケート実施後にアンケート結果共有会議を開催して問題行動及びいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。

キ キャンパスカウンセラーとの連携を進め、教育相談体制の充実に努める。

(3) 特別活動

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの長所や可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

ア ホームルーム活動

ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力しながら実践する。

イ 生徒会活動

異なる学年の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸課題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組む。

また、生徒会行事やボランティア活動の企画運営を通して、リーダーシップを育くむとともに、特色ある学校文化の創造に努める。

ウ 学校行事

全校もしくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。また、地域の特性を生かした体験的な活動を通して、郷土を愛する心と豊かな情操を養う。

エ 部活動

生徒の優れた能力や技能を育成するため部活動の活性化に努める。また、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資する。

また、帰路での船の時間に制約がある中で、限られた短い時間で活動するという意識を高め、集中力を養う。

(4) 進路指導

生徒一人ひとりの個性の伸長に努め、自己の能力・適性、興味・関心等に基づき、将来の生き方を考え、進路を主体的に決定できる能力・態度の育成を図る。

進路実現の礎となる確かな学力を保障するために、教務部・総務部と連携を図り、個々の実状に応じた個別補習を効果的に運営する。

また、インターンシップや体験入学、オープンキャンパスへの参加を促進し、より実地的で自己の感性に刺激が与えられるような生きた進路指導を目指す。

さらに「進路指導規程」を実情に合わせて見直し、「進路の手引き」を作成して、高校3年間を通じ、組織的・継続的に一貫した進路指導体制を推進する。

以上の点を達成するために、各学年の進路目標・実践内容を明確にし、適切な進路指導体制の充実を図る。

○第1学年 基礎・基本の定着を図り、自らの適性を自覚した適切な進路選択ができるよう情報や資料を提供する。また、キャリアノートを通じての学びや、適性診断の結果等を踏まえ、希望進路を明確にする。

○第2学年 学習意欲の向上及び学習習慣の確立、基礎学力の定着を図る。さらに、資格取得に積極的に取り組ませ、生徒の進路実現に向けた指導を行う。特にあいさつ等の社会人としての基本的なマナーを身につけさせ、就職希望者全員のインターンシップを計画し、進路選択の幅を広げる。

○第3学年 進路実現に向け、個別指導を通じて学力の向上を図るとともに、自ら学習に向かう姿勢を身につけさせる。さらに、ホームルーム活動、学校行事や地域行事を通じて、情報発信力、傾聴力、協働力、コミュニケーション能力等の「社会人基礎力」を身につけさせる。

(5) 人権教育

道徳・人権教育推進委員会が中心となり、生徒の人間性の涵養を行う。

ア 指導にあたっては、全教職員の共通理解に基づき、学校教育の全領域において人権尊重啓発の指導を行う。

イ 女性、子ども、障害のある人、外国人等の人権にかかわる課題の解決に向け、総合的な体制の整備・充実に努める。

ウ いじめ等の早期発見とその解消を目指した指導を行う。

(6) 防災教育・学校安全教育

ア 学校における防災・学校安全保障体制の充実をはかるとともに、生徒が災害や危険な状況から自らの生命を守る能力・態度を育成する。

イ 地域の防災体制や有事下・災害発生時の対応等についての理解を深め、生徒に適切な指示ができるよう、教職員自らの防災リテラシーや応急処置能力の向上に努める。

ウ 地域の防災拠点としての役割を自覚し、幼小中高及び地域合同避難訓練等を通して、地域に信頼される存在となるよう、生徒自身が高い意識を持つように指導する。

(7) 国際理解教育

ア 国際社会において主体的に生きる人間としての自覚を持たせ、自国の文化や伝統を大

切にする心を育てるとともに、他国の歴史や文化についての理解を深めさせる。

イ 国際的な視野を持って異文化を理解し尊重する態度や、多様な文化を持った人々と共に生きていく態度を育成する。

(8) 福祉教育

ア 健康福祉社会づくりに向けて、命の大切さや他者への思いやり等福祉に対する心を育てるとともに、高齢者や障害のある人への理解を深めさせ、人間の尊厳と人間関係の大切さに気づかせる。

イ ボランティア活動などを推進し、日常的に福祉活動に取り組んでいく意欲や態度を育成するとともに、自己の有用感を見出す喜びを味わわせる。

ウ 地域の包括支援センターと連携協力し、地域の高齢者の集いへの参加を促進し、認知症への理解を深める学習会を実施する。

(9) 情報教育

ア 高度情報化社会に適応できるよう、すべての生徒が情報手段を適切に操作・活用できる能力を育成する。

イ 情報ネットワークや情報端末を積極的に活用することにより、創意工夫を凝らした教育活動を推進する。

ウ 情報や情報通信技術の活用にあたっては、プライバシーの保護や著作権の尊重等の重要性を考えさせる。また、情報モラルの育成に努め、生徒が加害者や被害者とならないよう指導する。

3 健康管理に関する指導の重点

生命の尊重を基本理念として、生徒が日々の生活の中で自他の健康について考え、生涯にわたって主体的に健康で安全な生活を送ることができる能力・態度・習慣を培う。

- (1) 健康診断や健康相談の結果を活用し、保健室の機能を十分生かしながら、個に応じた健康管理・保健指導を行う。
- (2) 喫煙・飲酒・薬物乱用については、生徒の実態に応じた実践的な指導を行い、健康とのかかわりを認識できるようにする。
- (3) 性教育については、性に関する正しい知識の習得と多様な性についての理解を深め、自分や相手の人格を尊重した行動がとれるよう教育活動全体を通して指導する。
- (4) 定期的な衛生検査や安全点検により、健康で安全な教育環境の維持を図るとともに、事故災害発生に即応できるよう救急体制を整備する。
- (5) 清掃活動を徹底し、学校環境衛生の維持・改善に努めるとともに、公共心や集団の健康を高めることに寄与する態度・能力を養う。
- (6) 衛生委員会を月1回開催し、教育の場である学校の環境改善に常に留意し、教職員の業務改善を目指す。
- (7) 感染症予防の意識を高め、感染症から身を守る態度を養う。
- (8) キャンパスカウンセラーと連携し、研修会等を通して、教職員のカウンセリングマインドの向上を図り、生徒の心の理解とケアの実践力を高める。

4 研究テーマ

- (1) 個性を伸ばす進路指導の観点に立った、特色ある教育課程編成の研究
- (2) 家庭や地域との連携のもと、人間形成を目指すキャリア教育の研究

- (3) 家庭や地域との連携のもと、生徒の社会性と規範意識を高める生徒指導の研究
- (4) 実地的体験活動を通じた、主体的で自発的な課題発見・解決能力育成の研究
- (5) 組織的な学校安全体制のもと、防災や防犯、交通安全への意識を高める取組の研究

5 県立高校ふるさと共創プロジェクト

【地域活動】

地域活性化のために、ボランティアとして地域行事等への参加を促し、郷土についての理解を深めさせて「ふるさと家島」を愛する心を育む。

- (1) 地域美化活動
- (2) ふれあい訪問
- (3) まちづくり推進活動
- (4) 幼小中高及び地域合同避難訓練

【就業体験】

進路における様々な体験を通して、高校生としての望ましい職業観や勤労観を育む。

- (1) 進路説明会
- (2) 大学・短大・専門学校体験入学
- (3) ハローワークにおける職業探索
- (4) 進路講話・進路講演会
- (5) 就業体験（インターンシップ）

6 高校生キャリアノート及びキャリアパスポートの活用

- (1) 生徒自らが夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、それに向かって進む力を育成する。
1 学年では、自己理解のワークに取り組むことを通じて、将来の進路についてのイメージをつかむ。
- (2) 2 学年では、自らの進路のこと、自分の住む地域の抱える課題や働くことの意義等について考えさせる。
- (3) 3 学年では、社会とのつながりや社会における自己の役割を考えさせて「ふるさと意識」を高揚させ、志をもって自らの未来を切り拓く力を身につけさせる。

7 県立高校魅力アップ推進事業

学校の活性化及び地域の活性化を図り、地域の将来を支える人材を育成する。幼小中高連携を積極的に行い、「オンリーワンの魅力を持つ学校づくり」を目指す。

- (1) 学校設定科目「海の生物」履修生徒が、県立いえしま自然体験センター等を活用し、海の生物について研究する。
- (2) 地元漁協や海運会社等の施設・設備を見学し、海事産業について学ぶ。
- (3) 地元中学校教員との授業研究及び小中学校への出前授業を実施する。
- (4) 地域のスポーツイベントへの生徒・教員の参加を促進する。また、ボランティアとして運営の協力も同様に促進する。